

(大阪東南部)

調査地は、豊臣秀吉による大坂城三の丸普請(一五九八年)に伴って、上町台地の西方に広がる難波砂堆上に造成・整備された「船場」と呼ばれる地域である。船場は、淀川の河口付近で分岐した大川につながる東横堀や西横堀の水運を利用して大いに繁栄した。その後、大坂冬の陣(一六一四年)によつ

大阪・大坂城下町跡

おおさかじょうかまち

1 所在地 大阪市中心区備後町二丁目

2 調査期間 OJ九七一六次調査 一九九七年(平9)九月一

一二月

3 発掘機関 (財)大阪市文化財協会

4 調査担当者 清水 和・平田洋司

5 遺跡の種類 近世城下町跡

6 遺跡の年代 弥生時代〜江戸時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は、豊臣秀吉による大坂城三の丸普請(一五九八年)に伴

て壊滅的な被害を受けたが、徳川氏大坂城期に再興し、商業・金融業の中心として発展した。

今回紹介する墨痕のある木製品は、背割下水に接する一七世紀後半の廃棄土坑から出土した資料である。この土坑の大きさは南北一三m以上、東西一八m以上で、埋土は炭化物を多く含む褐色細粒砂である。出土遺物の主なものは、肥前陶磁器・瀬戸美濃陶器、居住者の生業を窺わせる用途不明の土師質鉢や、漆器の椀・箸・刀の鞘・下駄・獣骨などである。

8 木簡の积文・内容



(178)×29×6 019

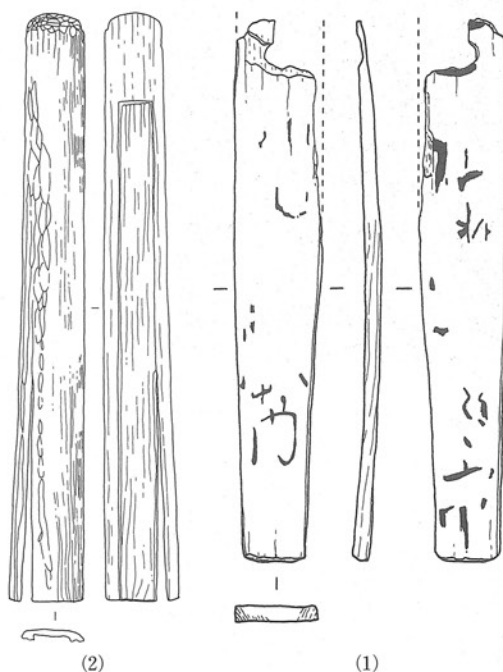
(2) 「朧月廿日」

300×31×11 061

(1)は表裏に墨痕が認められ、裏面に「門」の可能性のある文字が見えるが、全文の判読はできなかった。

(2)は刀の鞘の半身で、表面に日付が書かれていることが、赤外線テレビカメラによる観察でわかった。この鞘のもう一方の半身も出土しており、これらを合わせると、刃わたり二四cm前後の小刀を収めた四五cmほどの脇差に復元できる。ただし、実際に刃を納めた実用品であったか否かについては不明である。

なお、木簡の釈読は当協会島居信子氏の検討による。(清水 和)



大阪・長保寺遺跡 ちようぼじ

- 1 所在地 大阪府寝屋川市出雲町
- 2 調査期間 一九九二年度調査 一九九二年(平4)一二月
一九九三年三月
- 3 発掘機関 寝屋川市教育委員会
- 4 調査担当者 濱田延充
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 古墳時代中期(五世紀) 室町時代(一五世紀)
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(大阪東北部)

長保寺遺跡は、寝屋川市のほぼ中央部に位置する古墳時代～中世の集落遺跡で、標高約4mの低地に所在する。遺跡の中央で北から南に流れる、寝屋川の旧流路と推定される古墳時代～奈良時代の自然河川が検出されており、この河川が形成した自然堤防上に立地していると考えられる。